



this is japan.を京都から発信

—株式会社ジェイアール西日本伊勢丹—

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、長年賛助団体として当財団の運営にご協力いただき、また、京都を代表する百貨店としてさまざまな取組をされている株式会社ジェイアール西日本伊勢丹です。総務部総務・コンプライアンス担当の園部さんと近藤さんにお話を伺いました。

地域とともに歩み続けて

ジェイアール京都伊勢丹は1997年9月に開店して以来、たくさんのお客さまに足を運んでいただいています。当店舗は京都を中心とする地域の伝統と文化、地域の皆さまとのふれあいを大切に、広く社会に、そして世界に向かってともに繁栄することを目指しています。京都を訪れる全ての方

京のとおきを発信しています

企画をする際には京都にある百貨店であるという意識を強く持っています。また、物が溢れるこの世の中で、どういったかたちで物を売っていくべきなのかを常に問い続け、商品としての物だけでなくその生産の舞台裏にあるそれぞれのストーリーも紹介しています。例えば現在ウェブサイト上にて、「京のとおき」という企画を続けています。京都ゆかりの商品一つひとつにスポットを当て、その背景もあわせて丁寧に語るという連載です。京都でつくられた物に込められている美意識や心意気といったことも知ってもらえたら、もっと京都を好きになってもらえるのではないかと。そんな想いから始まった企画です。その商品を手にした方のライフスタイルがより充実し、さらに商品への愛着を深めていただければとの願いを込めています。

京都の玄関口にある百貨店として

当店舗はJR、近鉄、地下鉄「京都」駅に直結し、まさしく京都の玄関口にある百貨店なので、観光で立ち寄られるお客さまもたくさんいらっしゃいます。ある意味では京都へ来られた方が最初におもてなしを受ける場、また、観光の最後におもてなしを受ける場であるといえますので、大変重要な役

に気持ちよく滞在していただけるようにと、開店当初から京都駅前周辺の道路の清掃に取り組んでいます。また、本年4月にオープンする「京都鉄道博物館」を応援するため、昨年からは、京都駅と梅小路公園にかけてエリアの皆さまと一緒に毎月第3木曜日の早朝を基本として清掃活動を行っています。

また、三越伊勢丹グループの企業メッセージの一つに「this is japan.」を掲げています。物を売ることがメインの企業ですが、ご来店いただいた方へのおもてなしやサービス、店内の装飾や環境など、世界に通じる日本の魅力を日々発信しています。



ジェイアール京都伊勢丹外観



ジェイアール京都伊勢丹2階吹抜け

写真提供：株式会社ジェイアール西日本伊勢丹

平成27年度 賛助団体



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

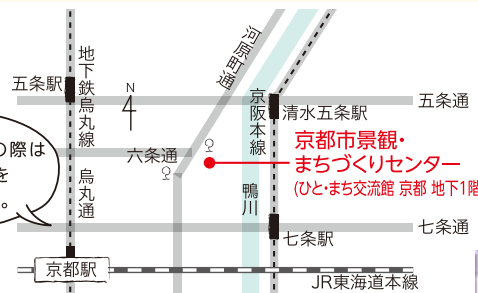
TEL：075-354-8701 FAX：075-354-8704

E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp

http://kyoto-machisen.jp



センターへお越しの際は
公共交通機関を
ご利用ください。



公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター 京まち工房 第74号 2016年3月 編集・発行 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 74



特集
P2-3

広がる、
京町家再生の可能性

P4-5

上京の歴史と魅力あるまちを守り、
育むプロジェクト

P6-7

京町家 東京シンポジウム
『あなたと生きる京町家』

P8

「わたしとまちづくり
—地域の個性に
最大限の敬意を
持ちながら—」
田中正人氏

P9

景観・
まちづくり大学

P11

平成27年度
賛助会員一覧
スタッフのつぶやき

P10

「京のまちかど」
案内ボランティアさん紹介
図書コーナーからのお知らせ

広がる、 京町家再生の可能性



京町家を改修して再生する際に、避けては通れないのが改修資金をどうやって調達するかという話です。このたび、当財団では、京都市と一般財団法人民間都市開発推進機構の資金拠出を受けて、京町家の改修費用をクラウドファンディングを使って集めようとする事業者の支援を行う「京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業」をスタートさせることになりました。

また、これまで古家として融資対象になりにくかった京町家を対象としたローンが続々登場しました。京都を拠点とする、京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫がそれぞれローンを販売するなど京町家再生のための支援がどんどん広がっています。

○京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業とは○

事業の目的

京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業は、京町家の再生・活用を通じた、京都らしいまちづくりの推進を目的としています。

京町家の改修費用を調達する際に、クラウドファンディングを通じて多くの投資家に参加してもらうことで、幅広い担い手による京町家の再生を目指します。



クラウドファンディングとは

クラウドファンディングとは、インターネットを通して多数の個人投資家から少額ずつ資金を集める仕組みです。

資金を集めようとする人は、まず始めようとしている事業をアピールします。その事業の理念や内容に共感した人が、資金を出して応援するのがクラウドファンディングです。

クラウドファンディングには“寄附を集める”ものや、配当を約束して“投資を集める”ものなど、いくつかの種類があります。今回、「京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業」ではより多くの資金を集めやすい“投資を集める”クラウドファンディングを使った京町家の再生、活用事業を支援します。

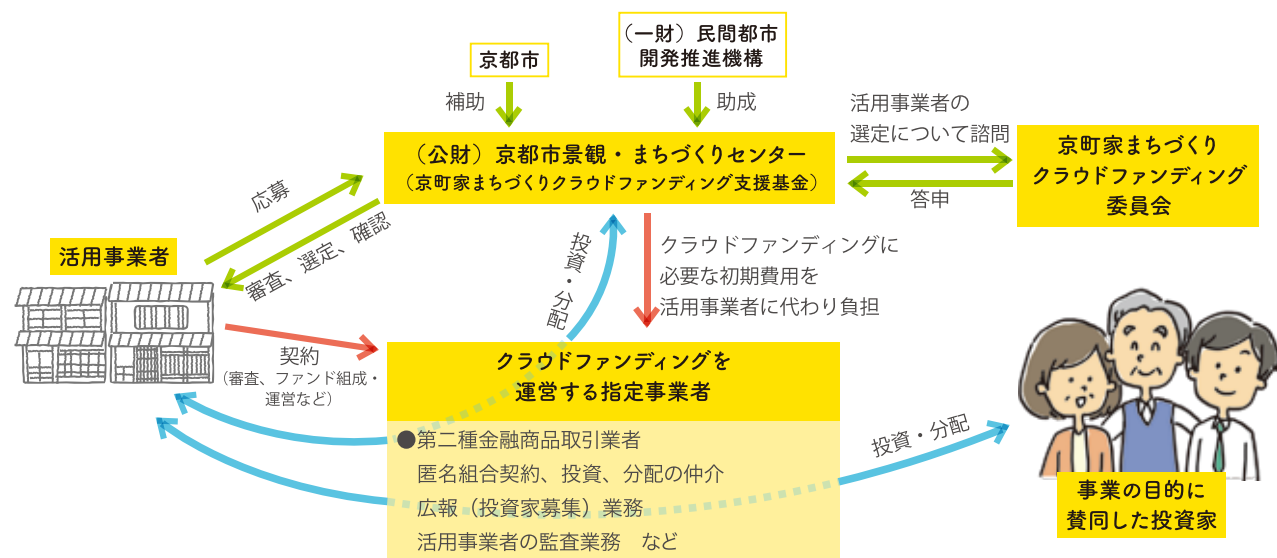
事業の仕組み

京町家を再生、活用しようとする事業者がクラウドファンディングを利用して京町家の改修費用を集めてもらいます。クラウドファンディングの利用にはお金が掛かりますが、当財団はその内の初期費用を負担します。

また、クラウドファンディングには募集目標額というも

のがあり、目標額を目指して投資の募集が行われます。京町家を再生、活用する事業者の獲得資金が目標額に届かなかった場合には、当財団が投資を行い京町家の改修が行われるように支援します。*

*一定の条件があります。



○支援の内容○

支援の対象となるのは

京町家を再生、活用する事業者が対象です。

地域の景観形成に寄与したり、地域住民に開かれた施設を運営するなど、「京都らしいまちづくり」に資する事業を行うかなどの要件があります。要件を満たし、支援対象としてふさわしいと判断した事業者を当財団で選定し、支援を行います。



支援金額

初期費用負担金 1事業 100万円（上限）

クラウドファンディングを利用する際に必要な初期費用を、当財団が代わりに負担します。

なお、支援を受ける事業者は当財団が指定するクラウドファンディング仲介業者を利用して頂く必要があります。

支援投資 1事業 300万円（上限）

京町家改修費用を募集しても目標額が集まらなかった場合、目標額の2分の1を集めていれば、集めた額と目標額の差額を当財団が投資という形で支援します。

京町家を対象としたローン

京町家を改修して住み続けようとする人や、事業を始めようとする方のために、京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫では、京町家を対象に融資を行うローンが用意されています。

いずれも当財団が発行する「京町家カルテ」などの取得が必要となります。詳しくは各金融機関にご確認ください。

●京都銀行

「京町家プラン」

ご本人またはご家族の方がお住まいになる京町家が対象

●京都信用金庫

「のこそう京町家」

ご本人がお住まいになる京町家が対象

「活かそう京町家」 賃貸用や、事業用の京町家が対象

●京都中央信用金庫

「京都中信 京町家レジデンスローン リフォームコース」

「京都中信 京町家レジデンスローン 住宅ローンコース」

ご本人がお住まいになる京町家が対象

「京都中信 京町家ビジネスローン」

賃貸用や、事業用の京町家が対象

このように、京町家を改修する際の資金の調達方法は、年々広がりをみせています。

一方で、京町家をご所有の方には、お持ちの京町家からは改修後のイメージが浮かびにくいという不安もあるのではないかと思います。

京町家を改修したカフェやゲストハウスは有名ですが、その他にも改修した一般の住宅用の京町家がオープンハウスとして公開されることもあります。

京町家の改修に興味を持たれたり、迷われたときには、ぜひ改修事例を見学してみてください。改修後のイメージを持てることは京町家再生の第一歩です。

当財団でも P4 や P9 に掲載しているように、見学会や相談会を開催しています。お気軽にご相談ください。



歴史と文化、伝統を受け継ぐまち京都の魅力を
未来へ継承するために、上京区において、相談会、セミナー、ワークショップなどを開催しました！

「上京の歴史と魅力あるまちを守り、育むプロジェクト」

平成 27 年秋、上京区各地にて、京町家などの継承や地域のまちづくりをより進めるために、さまざまな取組を行いました。
各取組の開催には、上京区にお住まいの方、企業、市民団体、専門家など、多くの方々のご協力をいただきました。

【主催】公益財団法人京都市・景観まちづくりセンター、京町家等継承ネット 【協力】上京区役所地域力推進室
*プロジェクトの詳細は、別途発行リーフレットをご覧ください。

まちセンサテライトオフィス

京町家・まちづくり相談室を元西陣小学校に開設しました！

開設期間 11月7日～12月6日(期間中の木・金・土曜日)

まちセンスタッフが常駐し、まちづくり相談、京町家などの相談に応じるとともに、まちづくりや京町家に関する情報発信の場としました。

期間中、相談会やセミナーを通じて、京町家の改修、活用などに関する約 70 件の相談がありました。



京町家・空き家 相談会・連続セミナー 開催期間 11月12日、14日、28日

▶相談会

各分野の専門家が、京町家の継承に関するさまざまなお相談をお受けしました。修繕・改修、活用に関するご相談が多く、また、活用や相続、資金や事業継承など、複合的に対応が必要となる相談も寄せられました。継承に向けて一歩踏み出すきっかけとなった案件も多く、活用や相続などに関する専門的なアドバイスが重要であることを確認しました。

(主催：京町家等継承ネット)

▶連続セミナー

司法書士、不動産事業者、大工の方々から、京町家などの相続や活用、改修などの知識、ポイントについてお話しいただきました。セミナーに参加された方が、その後、ご自身の京町家についてご相談に来られるなど、具体的な課題解決に向けた取組につながりました。

連続セミナー内容

- 11月14日 第1回「備えて安心 相続の基本—相続と遺言—」 不動産屋さんへ聞く！
- 11月14日 第2回「京町家・空き家の賢い活かし方—活用事例に学ぶ—」
- 11月28日 第3回「京町家を家族に残すためのノウハウ」 司法書士さんへ聞く！
- 11月28日 第4回「京町家の修繕・改修のポイント」 大工さんへ聞く！



京町家見学会、セミナー 開催期間 11月21日、26日

上京区内の京町家にて、見学会やセミナーを開催しました。所有者・居住者の方から京町家に対する想いや体験をお話しいただき、改修に携わった建築士の方から解説いただくなど、京町家を見て、聞いて、触れて、魅力を知っていただく機会となりました。

(共催：京町家等継承ネット)

開催内容

- | | | |
|---|--|--|
| 11月21日 セミナー・見学会
会場:五辻庵(京町家の宿)
「庭と共に住まう：町家の庭を知るにはココを見よう!!」 | 11月21日 見学会
会場:連庵
「西陣 路地奥の京町家の改修事例」 | 11月26日 セミナー・見学会
会場:正庵(京町家の宿)
「景観重要建造物の京町家を宿泊施設へ」 |
|---|--|--|

*京町家等継承ネットとは……

京町家などの継承に関わる多くの専門団体や、京都市を含む公的機関が参画し、普及啓発や相談活動、支援システムの開発などに取り組む協働ネットワークです。今回、相談員として延べ約 50 名の専門家の方にご協力いただきました。

上京オープンウィーク2015

開催期間 11月15日～22日

上京区を拠点に、まちづくり活動や京町家での活動をされている方々が出会い、ネットワークの形成を目指しました。プレゼンテーションでは、27組の活動団体や130名の方が参加し、多くの方々が交流する場となりました。

上京区の更なる魅力の発信・創出に向けて、このネットワークを広げていきます。

(共催：上京クリエイティブネットワーク準備委員会)



開催内容

- 11月15日 基調講演と参加者の活動に関するプレゼンテーション(計27組)
- 11月21日 ワークショップ「アートを育む場」、「未来をつむぐ場」
- 11月15日～22日 参加団体、個人、事業者がオープンハウス、展示、PR活動などを各所で実施

シンポジウム「創造のまち・上京」

開催日 11月7日

上京で展開されている地域の価値創造につながる活動を紹介し、まちの資源の活かし方やさまざまな連携の効果を共有しました。
*前号 73 号に詳しく掲載しています。

地域まちづくりワークショップ

開催期間 平成27年11月～平成28年2月(全4回)

上京区の各学区の方々とともに、地域の魅力や資源を再発見し、課題を確認するワークショップを開催しました。まちづくりの専門家の方々のサポートのもと、学区ごとに意見交換やまち歩きを行い、上京区に多く残る京町家、細い路地(袋路)や空き家などを、どのように地域で見守り、まちの魅力・よさを残しながら、更にまちの安全性を高めるために、取り組みそうなことなどを話し合いました。

「実際にまち歩きをして、自分たちのまちを見直すことができた」、「他の学区の取組がわかってよかった」などの感想をいただき、具体的に「袋路の通り抜け扉の設置を進めたい」、「路地奥にある空き家や京町家の改修手法を知りたい」、「京町家や路地などの魅力を地域で共有・発信したい」などの意見が出されました。

9 学区の皆様にご参加いただきました

成逸学区、室町学区、乾隆学区、翔鸞学区、桃園学区、正親学区、中立学区、待賢学区、春日学区

プロジェクトを通じて……

京都らしい町並みや文化、地域のコミュニティを守り受け継いでいながら、まちの安全性を高めるためには、各分野の専門家と連携しながら京町家や空き家の継承を進めるなど、実践的な解決を図っていくことが大切です。また、市民団体、専門家、企業などさまざまな活動主体が連携し、地域資源を活かした創造的な活動が展開されることで、更にまちの魅力が高まると考えています。

京のまちづくり史セミナー

開催期間 10月24日、11月8日、11月22日

京都のまちの成り立ちについて、上京区を舞台に学びました。京都のまちづくりを支えてきた町衆の力や、地域に身近にある京都の景観の奥深さに触れることができました。

開催内容

- 10月24日 「豊臣秀吉の京都改造と上京の町人たち」
- 11月 8日 「仁丹町名表示板が見つめてきた、まち・上京の魅力」
- 11月 8日 「小学校建築からみる上京の歴史とまちの魅力」
- 11月22日 「京都・上京の近代化遺産と地域の関わり」

京町家アーティスト・イン・レジデンス

開催期間 9月25日～12月16日
(成果発表展 12月4日～6日)

オランダ人アーティスト 2 組が上京区の京町家に滞在し、制作やワークショップなどを行いました。京町家の空間的な魅力などが語られ、創作活動を通して出会った地域の方々との文化交流の場となりました。



開催内容

- 11月27日 (第1回)ガイダンス、意見交換
- 12月17日 (第2回)意見交換
- 1月24日 (第3回)まち歩き
- 2月18日 (第4回)発表会

京町家 東京シンポジウム 『あなたと生きる京町家』

京都の暮らしの文化、まちづくりの文化が受け継がれ、歴史的、文化的、景観的な価値を有する京町家には伝統の技が凝縮され、洗練された美しさを備えています。大切な京町家を未来に継承していくために、京都においては、行政の支援だけでなく、「京町家まちづくりファンド」や「京町家等継承ネット」など、市民や企業が一体となって、京町家のよさを引き継ぐための取組を進めています。今後、京町家を日本の文化として一層大切に守っていくために、日本全体で支える仕組みを検討するため、東京・日本橋でシンポジウムを行いました。



パネルディスカッション

「京町家の魅力と継承」

これまで代々大切に守られてきた京町家の歴史と文化や空間を活かして、伝統と現代の融合した創造的な商品の開発が進められ、また、京都の魅力を国内外に発信する動きが生まれています。これらの活動を紹介しながら、京町家の持つ潜在的な魅力と持続的な継承の方法について考えました。



大場氏

京都の町家は平安時代後期に基本形が成立し、以後約 1000 年間、その基本形が今も引き継がれていることは世界史的に見ても例がなく、世界遺産的な価値を持っています。京町家の意匠は、戦国時代末期から江戸時代初期にかけて最も華やうぎ、個性豊かで、建物を目立たせる役割として卵建が形成されました。しかし、江戸時代後期には、抑制的で通り全体の景観を重視した外観となり、現在見ることができる町家や町並みが出来上がりました。屋根まで伸びる通し柱と卯建をもつ京都型の町家は、「江戸図屏風」にも見られ、近世初期の江戸が京をモデルにしてまちづくりを進めたことがわかります。みやこを志向して京都型町家が全国に広がり、日本の近世の町家を先導していきました。



若村氏

国指定文化財の京町家をオフィス兼催し会場として活用し、京都の歴史や文化を伝える京都学講座や、茶会や室礼換えなど体験イベントを開催しています。京町家には、日々の室礼や庭の手入れを通して季節の移り変わりを感じることができる魅力があります。京都京町家などそこに存在する建物自体も素晴らしいのですが、千年の都として日本の文化と暮らしの中心であり、そこで年中行事を行い、季節毎に室礼を換えて、季節を感じながら生活してきたことに大きな価値があります。まさに京町家は生活の空間であり、その空間で文化や暮らしを受け継ぐことが大切で、これからも日本人が伝えてきた精神文化や年中行事を京町家の空間を活かして伝えていきたいです。



コーディネーター

大場 修氏

(京都府立大学大学院 教授、京町家まちづくりファンド委員会 委員長)

パネリスト

細尾 真生氏

(株式会社細尾 代表取締役社長、京都経済同友会 副代表幹事)

若村 亮氏 (株式会社らくたび 代表取締役)

山中 琢人氏

(株式会社フージャースコーポレーション 京都支店 支店長)



細尾氏

元禄年間 1688 年創業の西陣の老舗の 11 代目として、安政年間からの京町家を工場兼ショールームとして活用し、西陣の技術と素材を用いた他では織れない広幅織物を世界のブランドメーカーなどに輸出しています。

ショールームには、世界各国から毎週のようにアーティスト、デザイナー、建築家などが訪れますが、彼らはものづくりの歴史的背景、文化、伝統、そしてものづくりが行われている空間を体感しに来られます。町家で引き継がれる日本の文化、匠の精神性や技に高い関心を示されます。

我が社にとって京町家は、世界の文化度の高い富裕層から評価を受けるとともに、国内外のメディアの取材などがひっきりなしに来ることから、京都の町家が大きな経済的価値、大きな宣伝効果を生んでいるといえます。



山中氏

平成27年に、京都市指定有形文化財『長江家住宅』を取得し、継承することとなりました。これは単に「不動産売買」ということではなく、「ご縁があって、大切な文化財を今当社が預かりさせて頂いている」という立場と考えております。継承までの2年間は、直接ご当主から、京町家の住まい方やしきたり、暮らしの文化等、京町家とは何ぞやということをじっくりとご指南いただきました。「長江家住宅」は、「船鉾」を有する鉾町に存し、祇園祭時には屏風祭等も実施しております。今後も不動産事業を通じた暮らしの文化の継承を目指し、産学協同研究や祇園祭等を通じた地域社会への貢献、更には京都の魅力を世界に発信するための「情報発信の場」として活用していきたいです。



トークイベント

「ハッ橋の歴史と京文化」

祇園町北側の井筒茶店は、「花洛名勝図会」元治元年(1864)にも描かれており、1805 年の創業当時の姿を残す祇園町の町並みはとても貴重だと思います。これからもその景観を守っていききたいという思いで、「井筒ハッ橋」を京町家まちづくりファンド寄附金付き商品として販売し、京町家の保全・再生に貢献しています。

「井筒ハッ橋」は、「ハ橋検校」という琴の名手を慕う心で、米を材料にした堅焼き煎餅を琴の型に見立てて売られるようになり、それを「ハッ橋」と呼ぶようになりました。

京都には14社のハッ橋屋があり、由来が違うお店もありますが、みんなで協力して、味や品質を守り伝える文化があるから

ご来場者に、京町家まちづくりファンド寄附金付き商品である「井筒ハッ橋」をご提供いただきました。



杉野 善彦氏

(株式会社井筒ハッ橋本舗 代表取締役社長)

こそ、多くの人に愛されています。京土産といえば「ハッ橋」といわれる理由として、「日本人の味覚に合った素材」や、そして何より大事な「京都の歴史への縁」があり、井筒のアイデンティティとして京都の歴史と文化をお菓子に乗せてお伝えすることを基本としています。

これからも、京都の歴史・文化・町並みに対する感謝を持って、京都を題材としたお菓子を提供し続けていきたいです。



花洛名勝図会
(国際日本文化センター所蔵)



■パネルディスカッション

京町家を活用する意味や可能性、日本における京都の役割などについて議論していただきました。

(山中氏) 私自身が、長江家に出会い、これを守っていききたいという強い気持ちになり、その想いが現実に町家を生かすことに繋がりました。長江家には企業や行政、大学やメディア等から高い関心を寄せていただき、様々な形で利用して頂いています。それらを今後も継続しつつ、今後はベンチャー支援や伝統産業の発信基地等、「『長江家住宅』にあれば何かが起こるような場」としての活用を検討していきます。

(若村氏) 京町家で「京都」や「日本」を学ぶことの意義は、見る観光から、もう1歩2歩深い、そこにある本物を学ぶことにあります。京町家の空間に入り、季節の食事や年中行事を体験し、本当に“京都人になったかのように旅する”ことで、社寺や町中を歩くだけではわからない、日本人が大切にしてきた日本の精神文化を、京町家の空間で感じて学ぶことができます。

(細尾氏) 21世紀型のビジネスのキーワードは「文化」、「幸福の追求」、「美しさ」だと思います。今は成熟経済になり、欲しいものは「もの」ではなく、「素敵なお物語」や「体験」、「情報」です。京都は長年にわたる文化や精神性の蓄積があり、たくさんの物語を語ることができます。これが今、経済の価値を生んでいます。文化が経済を生む社会において京都の役割はますます大きくなっており、そこに気づいた人が京都に大きな関心を寄せています。



細尾氏(左)、若村氏(中)、山中氏(右)

まちセンまとめ

当日は、一般市民や企業の方々など、342 人もの参加者があり、京町家の現状や京都の取組を知っていただくとともに、支援について考えていただく機会となりました。

これからも、京町家の魅力や品格、潜在的な価値を広め、日本全体で守っていく気運、仕組みを考え、実現していきたいと思いますので、皆さまのご協力、ご支援をお願いいたします。



- 日時 平成28年2月17日(水)
午後1時30分～午後4時30分
- 場所 野村コンファレンスプラザ日本橋 6階 大ホール
- 主催 京都創生推進フォーラム、京都市、京町家等継承ネット、公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
- 後援 京都創生百人委員会
- 協賛 株式会社 LIXIL グループ、株式会社フージャースコーポレーション
- 協力 野村コンファレンスプラザ日本橋

※シンポジウム開催にあたり、株式会社 LIXIL グループ様、株式会社フージャースコーポレーション様からご支援をいただきました。

わたしとまちづくり

ー「場所」と「リスク」と「合意」をデザインするー

当財団では、多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。そこで当コーナーでは、深い知識や多くの経験、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の皆さんをご紹介します！

今回はこの方！



田中 正人氏（株式会社 都市調査計画事務所）

兵庫・京都で多くの地域を支援しており、「防災」、「団地再生」、「町並み保全」などさまざまなキーワードのプロジェクトを手掛けておられます。京都では「地域景観づくり協議会」の取組支援などを通して、町並み保全や地域の景観ビジョンの策定を支援され、当財団の登録専門家としても活躍していただいています。

私たちの仕事

私たちの事務所では、現在、京都・兵庫あわせて15地区のプロジェクトを支援しています。内容は、密集市街地の減災まちづくり、高齢化の著しい「オールドニュータウン」での居住継続支援、歴史的景観地区の町並み保全などさまざまです。京都では東山区の二年坂、右京区の仁和寺門前の2地区で「地域景観づくり協議会制度」に基づく取組をお手伝いしています。

ところで、「密集市街地」や「オールドニュータウン」や「歴史的景観地区」といった分類は、言うまでもなく一面的で、ある種の押しつけがましさを免れません。本来はそんな分類を超えたところに地域の個性はあるはず。一方で、個別的である各地域を貫く、共通に課せられた命題があると思っています。それは「場所」と「リスク」と「合意」をデザインすることです。

「場所」のデザインとは、面積や幅員といった物的条件からではなく、その地域の暮らしや人々の経験や記憶や生業から発想し、そこから新たな課題に応える空間を構想すること

です。「リスク」のデザインとは、災害や事故などのリスクをただ低減するのではなく、特定の地域や人々への集中を退け、社会全体で受け止めるものに変えていくことです。たとえば、災害リスクが大きいかつ高齢層の多い地域で進められている減災政策が、結果として若年層の住み替えを誘導していたら、残された高齢層にさらなるリスクを押しつけることになってしまいます。そうした不均等な結果をもたらさない政策が求められます。「合意」のデザインとは、徹底的に民主的な意思決定プロセスを追求することです。安易な多数決が暴力的であるのは疑いのないところですが、しかし最後はそれに頼らざるを得ない場合があるのも確かです。その厳しいジャッジは、「少数派の人々が多数決に合意している、そして多数派の人々は、仮に自分が少数派であっても多数決に合意する」という条件下においてのみ履行が許容されると考えています。

このような3つのデザインを試みながら、地域が有する圧倒的な個性と多様性を理解すること、それが私たちが現時点で大切にしている方法論です。

次代の専門家を育てる環境

私たちの事務所には、15時半からスタッフ全員（現在6名）がそろってお茶を飲むという「伝統」があります。事務所のある東灘区は関西屈指の洋菓子店激戦区で、お茶菓子のバリエーションには事欠きません。ここ数年、この「伝統」にインターンシップ生も加わることが増えました。彼女ら（なぜか女子学生ばかり）の専攻は、建築や観光、国際協力など多岐にわたり、まちづくりに関心を寄せる層の厚みを感じます。専門家不足といわれますが、潜在的な若手人材は間違いなく豊かです。今後、より公正な社会とそれを支える美しい空間を構築できるかどうかは、何より彼／彼女らの思いを支える環境のあり方にかかっている、そのように思います。



↑神戸市垂水区塩屋の町並み
→京都市東山区二年坂の町並み

景観・まちづくり大学

景観・まちづくり大学は、京都のまちづくりに関心のある人が集い、語らい、交流する場です。共に学び、共に育つ…。元気なまちへの一步、あなたから始めませんか。

京町家再生セミナー

京町家の“最初の一歩”としての基本講座です。身近な存在としての京町家の姿を知り、再生の方法などを学びます。

平成27年
11月7日土

京町家に住むまでと住んでみて～四季を楽しむ過ごし方～

【会場】生川（なるかわ）邸（京まち工房第59号参照）
講師：生川 慶一郎氏とご家族（京町家居住者）
コーディネーター：朝倉 眞一氏（まちひろば計画工房）

近年、新しい家族の生活の場として京町家を選択する例が増えています。今回は、2年前に大阪から引っ越して京町家暮らしを始めた生川さんのお宅でお話を伺いました。信頼を寄せている大工さんからこの建物の価値を説明してもらい、家族の同意を得た経緯、工事前の数箇月、週末ごとに家族で通って、家の掃除をする過程で、建物への愛着が生まれたことなどを伺いました。

内部の見学をはさみ、息子さんの小学校の夏休みの宿題「家の各所の気温調査」の発表で場が和んだあと、朝倉さんの司会進行のもと、参加者との意見交換を行いました。住んでみて庭

の四季折々の美しさを実感したこと、奥様からは、寒くて暮らしにくいと思っていた京町家が実はとても快適なことや、伝統文化への関心が芽生えてきたことなどを伺いながら、美しくよみがえった京町家の空間で至福の秋のひとつきを過ごしました。



見学時の様子（2階座敷）

生川さんご家族

平成27年
11月21日土

庭と共に住もう：町家の庭を知るにはココを見よう！

【会場】五辻庵（京まち工房第58号参照）
講師：仲 隆裕氏（京都造形芸術大学教授）、水口 義晴氏（京町家の宿「五辻庵」オーナー）
共催：町家をトーク運営委員会

人と京町家の庭との密接な関わりは、伝統文化や芸術にも大きな影響を与えてきました。京町家の建物の形状と庭の配置の関係性や、^{がらんせき}加藍石、^{つくばい}蹲踞など庭の構成要素について学んだあと、作庭をされた佐野さんも一緒に、紅葉のお庭を見学しました。また、水口さんからは、お母様のご実家であるこの京町家への思い、改修の経緯や1階部分の宿としての活用についてお話しいただきました。セミナーの後半では、池泉庭園、枯山水、露地庭など日本庭園の歴史を紐解きながら、それらの要素がどのような形で京町家の庭に取り入れられていったのか、図や写真を

交えてご説明いただきました。（当日はオープンハウスを同時開催し、約80名の方にお越しいただきました。P4参照）



水口さんのお話（2階座敷）

仲先生のお話（2階座敷）

京のまちづくり史セミナー

都市史の中でも、特に住民の自立した活動としてのまちづくりの変遷を学ぶ講座です。

平成27年
11月22日日

京都・上京の近代化遺産と地域との関わり

講師：岡田 昌彰氏（近畿大学教授）

近代化遺産と、地域の生活や景観形成との関わりをお話いただきました。近代化遺産とは、日本の近代化を支えた工場設備や建造物などを文化遺産として捉えたもので、技術や意匠の歴史を伝えるだけでなく、その景観が、地域の風景として、地域の誇りとなっています。

京都に数多く残る児童公園は、遊具や付属物などの造形的な多様性において近代化遺産に値するだけでなく、ラジオ塔や地蔵堂

の存在など、地域の活動拠点との一体性も示されました。上京区にも、橘児童公園や二条児童公園などがありますが、付属物などが撤去され、防災などの新たな拠点として改修が進められている事例も紹介されました。

近代化遺産の多くが、まちづくりの核となる地域資源として活用・転用されていますが、それらの改修には、歴史的価値と生成空間の価値の理解と尊重が重要であることが述べられました。



セミナーの様子

展示施設

「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介

このコーナーでは、ひと・まち交流館京都の1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアの皆さんをご紹介します！今回は、ボランティア2期生の田辺誠子さんにお話を伺いました。

Vol.7

田辺 誠子 さん



京都に住んで感じたこと

京ことばがとても素敵で、特に「おはようおかえり」という言葉が好きです。

最初は、早く帰らないといけないのかと思っていましたが、無事で帰ってきて欲しい、待っていますという意味がこめられていることに気づき、素敵な京ことばだと思いました。

京都でお気に入りの場所は？

京都市東山区の泉涌寺せんいゅうじがとても魅力的です。

一般的に寺院は、平地や小高い場所に建てられていますが、泉涌寺は、大門から少し下に見える仏殿までは緩やかな下り坂になっており、「下り参道」と呼ばれています。大門をくぐると、仏殿にすいこまれそうで、幻想的です。

好きな時代は？

室町時代です。公家の文化と武士の文化が融合し、新しい文化が成長し、公家、武家だけではなく、民衆と多くの人の間で親しまれました。

応仁の乱で京都の戦乱を避けた多くの公家や文化人たちが、戦国大名を頼って城下町に移り住み、彼らによって京都の文化が地方に広められました。

室町時代は、民衆や地方へも文化が広まり、能、狂言、連歌、御伽草子、茶の湯、生け花など、今日まで息づいている伝統文化が誕生した、とても興味深い時代です。

図書コーナーからのお知らせ

第7回 ギャラリートークのご案内

「洛中洛外図に見る端午の節句」

日時 4月22日(金) 午後2時～

上杉本洛中洛外図屏風の実物大複製パネルで、室町時代の早春から初夏の景観を一緒に見ていきます。

特集「上杉本屏風と足利尊氏」
(次回から、歴史上の人物を取り上げます)



*事前予約は不要です。
当日、「ひと・まち交流館 京都」地下1階の図書コーナー横にある、複製パネル前にお集まりください。

これからの予定(平成28年)

7月 祇園祭 特集「足利義政」
10月 紅葉狩 特集「足利義輝」

図書スタッフおススメ本 vol.8

「京都の町家と町なみ
何方を見申様に作る事、堅仕間敷事」
著者 丸山 俊明



あえて「京町家」とせず「町家」が他の都市より多く残っただけという京都の町並みを、幕府の規制や町式目から辿り、定説を疑う実証的な手法で京都の景観を説き明かしています。

専門的な書物でありながら、京都の歴史や建築、防火対策や洛中洛外図などに関心のある方には興味深く読み進めることができます。

平成28年度賛助会員募集中！

当財団は、平成29年に設立20周年を迎えます！
住民・企業・行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。
活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。

年会費

個人1口 5,000円 団体1口 50,000円

特典1

ニュースレター「京まち工房」の送付(季刊・年4回)

特典2

各種セミナー・イベントのご案内(随時)

特典3

当財団ホームページへのバナー掲載(団体会員)

入会をご希望の方は当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください！

景観・まちづくりセンター 検索

平成27年度は下記の皆さまにご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

●個人会員 相原 満、青木 義照、赤澤 正明、秋丸 隆之、浅田 毅、足立 和康、足立 勇一、阿部 麻衣子、荒金 博美、居内 学、生駒 勲、石川 日佐美、石原 一彦、石村 陸貴、磯畑 健一、伊藤 真嗣、伊藤 勉、伊藤 正人、井上 信行、井上 博史、岩井 英人、岩崎 清、岩崎 亘男、上北 泰史、上田 菜穂、上原 智子、梅戸 陽子、江籠 義貞、江田 頼宣、太田 滋子、太田 昌志、大塚 健志、岡崎 篤行、小笠原 憲一、岡田 圭司、岡田 耕介、岡本 正二、岡山 尚義、奥 美里、尾崎 学、押谷 昌成、小谷 泰生、笠岡 英次、片山 尚彦、加藤 昭、門川 信一郎、河邊 聡、河村 宏、川本 淳一、北川 洋一、鬼頭 謙、来海 賢一、木村 忠紀、木村 真紀子、木本 剛、黒川 淳介、黒田 芳秀、桑原 尚史、小泉 光太郎、小西 二郎、小西 吉治、金剛 育子、坂田 榮一、坂本 正壽、佐竹 和男、佐藤 友彦、佐藤 七重、佐藤 寿、佐藤 友一、真田 松寿、佐野 文洋、鮫島 恵子、澤本 彰三、椎名 龍太郎、四方 喜代子、志渡澤 祥宏、柴崎 孝之、島田 和明、島村 哲郎、清水 博之、下村 哲也、朱 斑勲、杉崎 和久、鈴木 知史、炭崎 勉、関岡 孝緒、瀬戸 隆文、高川 祐子、高木 勝英、高木 貴子、高木 伸人、高杉 学、高橋 ありす、高溝 良輔、高谷 和代、多田 吉宏、多見 貞子、辻 真紀子、辻 誠、寺島 彰、寺田 敏紀、寺田 史子、寺本 健三、土井 靖典、富山 育子、内藤 郁子、中井 健一、中川 敬博、中島 吾郎、中島 弘益、中司 小百合、仲西 弘樹、中村 秋男、中村 進一、中村 有希、中山 雅永、生川 慶一郎、西澤 亨、西嶋 淳、西村 健、能谷 友章、齒黒 健夫、橋本 勝喜、橋本 操、畑 正一郎、旗 哲也、早崎 真魚、林 欽太郎、林 建志、林 道弘、速水 孝治、平井 義也、平竹 洋子、平戸 秀幸、吹上 裕久、福島 正俊、福林 文孝、藤田 裕喜、藤村 知則、二松 康、富名腰 隆、船橋 律夫、文山 達昭、古川 吉則、古谷 正弘、平家 直美、堀 有輝子、前田 史浩、牧野 忠廣、松田 彰、松村 光洋、松村 互、三科 卓巳、水谷 新太郎、水野 歌夕、水口 義晴、三村 浩史、宮岡 和子、宮岡 博之、宮村 友子、村上 真史、村林 正次、元持 清、初井 太計司、森川 宏剛、八木 繁紀、八木 なるみ、安本 典夫、柳原 博實、山内 典子、山内 比呂史、山内 みどり、山口 まみ、山田 悟、山田 浩之、山本 耕治、山本 茂、横田 政広、吉田 友彦、吉永 順子、吉村 篤一、若山 直樹、和田野 美久仁、その他氏名非公開 8名(五十音順、敬称略)

●団体会員 大阪ガス株式会社近畿圏部、『京ぐらし』ネットワーク、京都駅ビル開発株式会社、公益社団法人京都市観光協会、京都信用金庫、一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会、京町家居住支援者会議、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、株式会社ゼロ・コーポレーション、一般社団法人相続相談センター、株式会社地域計画建築研究所、株式会社八清、株式会社フラットエージェンシー、平安建材株式会社、松ヶ崎学区自治連合会、ミサワホーム近畿株式会社京都支店、株式会社都ハウジング、立命館大学歴史都市防災研究所、ローム株式会社(五十音順、敬称略)

京町家まちづくりファンドへのご支援
ありがとうございました。



●平成27年度寄附者 The Deepest Kyoto Tour 実行委員会、高橋 ありす、中井 邦子、山内 圭、徳光 都妃子、NIGEL BALDWIN、生川 慶一郎、木崎 勝夫、望月 幸夫、木村 忠紀、高川 祐子、西村 孝平、吉田 光一、岡本 秀巳、大宮 祐治、木股 博一、辻 勇治、Mr.&Mrs Frans and Lynette kapiteijn、その他氏名非公開 3名(順不同、敬称略)

●寄附付き商品協力企業 株式会社井筒ハッ橋本舗、京都青果合同株式会社、株式会社さんけい、コカ・コーラウエスト株式会社、株式会社伊藤園、京都クレジットサービス株式会社(順不同、敬称略)

ホームページリニューアルの
お知らせ

平成28年3月に
リニューアル！

この度、ホームページのリニューアルを行いましたのでお知らせいたします。今回のリニューアルでは、よりわかりやすく・より使いやすくを目指し、「新しい・楽しい・ためになる」景観・まちづくりの情報をお伝えしていきたいと考えております。ぜひご覧ください！

<http://kyoto-machisen.jp>

景観・まちづくりセンター 検索



スタッフのつぶやき

3年ぶりに京都に戻って、新米コーディネーターとしてまちづくりの修行をしています。

自己紹介で「以前の仕事は長唄三味線の演奏家でした」と言うと、びっくりされます。趣味はお茶です(全然上達しません)。居合も好きです(しばらくできていません)。つまりは日本の文化が大好きなのです！

京都は文化の源流・宝庫だと思います。そして、今も、そ

んな文化やしきたりが育まれている京町家や地域の暮らしが、とても魅力的に感じられます。

まちセンに来て、もうすぐ1年。まちづくりの奥深さ、難しさに勉強の日々ですが、少しでも暮らしの文化を守り、受け継がれるためのお手伝いをしたいと思っています！



スタッフN.I.